

第15回 持続可能な開発目標達成に向けた
国際教育協力日本フォーラム（J E F f o r S D G s）
（平成30年3月8日（木））
丹羽文部科学副大臣冒頭ご挨拶

本日は、お忙しい中、「持続可能な開発目標達成に向けた国際教育協力日本フォーラム」にご参加いただき、御礼申し上げます。文部科学副大臣の丹羽秀樹です。文部科学省を代表して、皆様にご挨拶を申し上げます。

また、本日は、日本政府としてお招きしました、チュンナロン・カンボジア教育・青少年・スポーツ大臣にも、基調講演者として参加を賜っています。チュンナロン大臣におかれましては、ご多忙なスケジュールの中ご参加いただきましたこと、光栄に存じます。改めまして御礼申し上げます。

本フォーラムでは、2004年に第一回会合を開催して以来、教育協力に関わる関係者の皆様とともに、国際教育協力のあり方について、自由かつ率直に意見交換してまいりました。今回、第15回を迎えますが、昨年エス・ディー・ジーズの第14回より、2015年9月の国連総会で「持続可能な開発目標：エス・ディー・ジーズ S D G s」が採択されたことを受け、「ジェフ・フォー・エス・ディー・ジーズ J E F f o r S D G s : 持続可能な開発目標に向けた国際教育協力日本フォーラム」として再出発しております。

SDGsという新しい共通アジェンダを得た今、本フォーラムの果たす役割は、一層重要性を増しており、成果に寄せられる期待も高まっていると考えます。このような状況を踏まえ、今後も引き続き、持続可能な社会の達成に向け、関係者による幅広い対話を促進してまいります。

文部科学省におきましても、SDGsの達成に向け、教育及び科学技術等の分野で、積極的に取組を進めています。特に、教育分野では、「持続可能な開発のための教育：^{イー・エス・ディー} ESD」の推進を通じ、SDGs達成への貢献に努めています。

たとえば、新しい学習指導要領に、子供たちが持続可能な社会の創り手となるために必要な資質と能力を身に付けることができるよう、「持続可能な社会の創り手の育成」の理念を導入いたしました。また、国内に1000校以上あるユネスコスクールを、ESDの推進拠点と位置付け、学校現場におけるESDの実践を通じた教育の質の向上に努めています。さらに、大学や教育委員会をはじめ、多様な関係者の連携による地域一体となったESDの取組を推進しています。

ESDは、教育に関する目標の^{エス・ディー・ジー} SDGゴール^{フォー} 4はもちろん、^{エス・ディー・ジーズ} SDGsの17すべてのゴールの達成に寄与するものです。文部科学省としましても、今後も引き続き、持続可能な社会を可能にする人材の育成等を通じ、SDGsの達成に貢献してまいります。

さて、今回のテーマは、「SDGsが求める教育の質：教育政策の現状と課題」です。SDGs達成に向けた取組が活発化する中、SDGs目標「ゴール^{フォー}4」の唱える「質の高い教育」とは何か、今一度ご検討いただくことは、大変有意義であると考えます。本日は、SDGsという共通のゴールに向けて、活発なご議論を頂き、このフォーラムが、教育の質の向上、ひいてはSDGsの達成に貢献することを、心より期待いたします。

結びにあたりまして、本日のフォーラムの実施に向けご尽力いただきました関係者の皆様に対し、感謝の意を表しますとともに、本フォーラムが、皆様にとって益々有意義なものとなりますことを祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

平成30年3月8日

文部科学副大臣 丹羽 秀樹

(了)